# ２年生の参考書

## １．組織学

［1］山田安正『現代の組織学』金原出版
［2］J. B. Kerr『カラーアトラス機能組織学』藤本豊士ほか訳，南江堂
［3］L. P. Gartner, J. L. Hiatt『ガートナー／ハイアット 組織学カラーアトラス』松村譲兒ほか訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル

## ２．解剖学

［1］松村譲兒『イラスト解剖学』中外医学社
［2］伊藤隆『解剖学講義』南山堂
［3］F. H. Netter『ネッター解剖学アトラス』相磯貞和訳，南江堂

## ３．発生学

［1］T. W. Sandler『ラングマン人体発生学』安田峯生訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル

## ４．生理学

［1］大地陸男『生理学テキスト』文光堂
［2］本郷利憲，広重力『標準生理学』医学書院
［3］坂井建雄，河原克雅『カラー図解 人体の正常構造と機能〔Ⅰ～Ⅹ〕』日本医事新報社

## ５．生化学

［1］中島邦夫ほか『図解よくわかる生化学』南山堂
［2］B. Alberts, *et al.*『細胞の分子生物学』中村桂子ほか訳，ニュートンプレス
［3］H. Lodish, *et al.*『分子細胞生物学』石浦章一ほか訳，東京化学同人

# ３年生の参考書

## １．病理学〔総論〕

［1］坂本穆彦ほか『標準病理学』医学書院
［2］堤寛『画像詳解完全病理学 総論』医学教育出版社
［3］坂本穆彦『コンパクト病理シリーズ Vol.1　病理アトラス 総論』ベクトル・コア

## ２．症候学

［1］川上義和ほか『チャートで学ぶ病態生理学』中外医学社
［2］松野一彦『一目でわかる病態生理』メディカル・サイエンス・インターナショナル
［3］S. Silbernagl, F. Lang『カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理』松尾理ほか訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル
［4］河合忠ほか『異常値の出るメカニズム』医学書院

## ３．微生物学

［1］東匡伸ほか『シンプル微生物学』南江堂

## ４．免疫学

［1］多田富雄，萩原清文『好きになる免疫学』講談社

# ４年生の参考書

## １．臨床医学

[1]「STEP」シリーズ，海馬書房
[2]「新・病態生理できった内科学」シリーズ，医学教育出版社
[3]「病気が見える」シリーズ，MEDIC MEDIA
[4]「100 %」シリーズ，医学教育出版社
[5]「CHART」シリーズ，医学評論社
[6] D. Dubin『図解心電図テキスト』村川裕二訳，文光堂
[7] 一色高明，杉村洋一『ゼッタイわかる 心電図・エコー図の読み方』医学教育出版社
[8] L. R. Goodman『フェルソン 読める！胸部 X 線写真』堀信一ほか訳，診断と治療社
[9] 百島祐貴『ゼッタイわかる 胸部写真の読み方』医学教育出版社

[1] は定番、誰もが必ず持っている。[2] はとても読みやすく、「5 血液疾患」と「7 神経疾患」の評判が良い。[3] は図表や写真が豊富でとてもわかりやすい。[4] は小児科とマイナー系を。[5] は精神科と小児科を。
[6, 7] は心電図、[8, 9] は胸部 X 線写真の解説書。[7, 9] を使うヒトが多いが、個人的には [6, 8] がオススメ。[6, 8] は臨床講義が始まる前に一度通読すると非常に良い。

## ２．病理学〔各論〕

[1] 坂本穆彦ほか『標準病理学』医学書院
[2] 赤木忠厚ほか『病理組織の見方と鑑別診断』医歯薬出版
[3] 北川昌伸，坂本穆彦『コンパクト病理シリーズ Vol.2　病理アトラス 各論 1』ベクトル・コア
[4] 菅野純，坂本穆彦『コンパクト病理シリーズ Vol.3　病理アトラス 各論 2』ベクトル・コア

## ３．Tutorial

[1] 福井次矢，奈良信雄『内科診断学』医学書院
[2] E. Braunwald『ハリソン内科学』福井次矢ほか訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル
[3] 杉本恒明ほか『内科学』朝倉書店

## ４．OSCE & CBT

[1] 田邊政裕『診察と手技がみえる vol.1』MEDIC MEDIA
[2]「CBT こあかり」シリーズ，医学評論社